
essais ころりみ 2018年4月

2018/4/2
(月)

晴れ

先週からずっと晴れ。桜はそろそろ散りはじめ、これもまた風情がある。4月、新年度のスタート。今年もお向かいのJR西日本本社ビル前から声。新入社員を迎えて組合の人たちが歓迎と勧誘のかけ声。これも季節の風物詩。

- 人を<わかる>ということ ① - わからないことをわかる

時々若い頃を思い出して、未熟だったわが身を恥じる。自分の業が多くの人にはピンとこないことが齒がゆく、愚痴をこぼしたりしていた。

ある人は、『それはあなたがまだ若いからじゃないの』。

えっ?! まったく別次元の指摘に目を丸くした。記録してないけど、こうして記憶しているのは、後々、その意味を実感したからだ。この指摘は一理ある。追って書くことにするけど、知人の男性コンサルタントは、早く年を取りたいと言っていた。

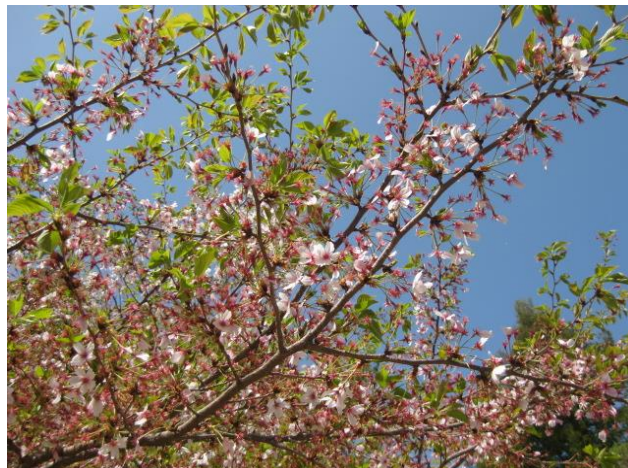
別のある人は、『そんな簡単にわかって堪りますかいな!』。

一瞬、言葉が出なかった。相手からこの一言が、当人の葛藤を重ねた末の<悟り>のように聞こえたからだ。冗談っぽく言ったけど、心に迫るものがあった。目が開いた。そんな感じがした。大事なことをわかっていない自分に気づかされた。

2018/4/5
(木)

清明

久しぶりに朝の散歩、うつぼ公園。昨夜少し雨が降り、2週間ほど続いたカラカラの空気が洗われた。桜は満開をすぎたけど、散り桜もまたこれ風情あり。一周した後バラ園のベンチで一服、書きもの。歩いて、花と木々をみて、頭の方では考えを巡らし、そして書く。「デフォルトモード・ネットワーク」がよく働いていると思います。



桜の葉のなんと初々しいこと！



これから迎える新緑、一年で一番意気揚々とした季節



ヤマブキも雪柳も、季節はいつもちゃんと巡ってきます。





2018/4/5 清明、晴れ
(木)

ようやく昨夜少し雨が降った。今朝は徐々に晴れてきて、気温も平年にもどり、清々しい。そこで久しぶりに朝の散歩をした。満開時期はどこも人が多いので出かけるのはやめて、だいたいの人が次の関心に移った頃に行ってみる。散る桜もこれまた風情あり。

- 人を<わかる>ということ ② - 変わってる？

『そんな簡単にわかって堪りますかいな！』。

人間みな、そんな単純じゃない、浅くない、狭くない、etc。知人が冗談っぽく言ったこの一言は、簡単な言葉ではあるけど、意味は深い。励ましであり、苦言でもあった。

この知人のことだって、わたしはどれほどわかっているだろう。この時点でまだ知り合って2年ほど、ほとんどわかっていないと言っていい。でも大事なことはわかっているから、今に至る20年以上のつき合いが続く。

精神性、知の働きどころに共通するものがある。そういう直感、共感、親近感。そういうものが互いに感じられるから、率直に思いを語り、相手からは、励ましだけでなく、苦言も呈してもらえる。

人間つねに変化しているから、完全にわかることは自他ともない。そもそも自分のことを自分でわかっている。わずかな天才をのぞいて、ほとんどは生きながらわかっていく。

時々自分で自分のことを『変わっている』と言う人がいる。かつての知り合いに、そう言った一人がいた。わたしにはそうは映らなかったのも、『そんなことないと思うよ』と返したら、『どこが?!』。

別の人と同じように言ったので、人の目にはそれほど変わっている人ではない。でも当人は変わっていると思っている。「変わっている」が当人の中で価値が高いか、あるいは自分を納得させるための拠り所か。

このあと考えてみた。自分で変わっていると言う人は、よほど人から言われ自覚させられ、先回りして言うようになったか、あるいは自分で変わっていると思いたい人か、どちらか。

ある日、人の目にも「変わっている」友人から電話がかかってきた。悩みの相談だった。

2018/4/10
(火)

大阪城公園

天満橋に用事があった。ついでに大阪城公園を少し歩いた。八重桜がちょうど満開。



藤の開花も今年は少し早い。



新緑に目を和ます季節到来。



2018/4/11
(水)

曇時々晴

昨日はよく晴れた。一転、今日は荒れた天気になるらしい。でも晴れてきた。朝はどんよりしていたのに。桜は八重が満開、造幣局さくらの通り抜けは今日から。

- 人を<わかる>ということ ③ - 見た目

外見も話し方もとてもかわいい女性がいた。独特の視点をもって、感心のあまり、数時間後になってわざわざ電話をしたくらい。『さっきのあなたのあの考えはあなたしか考えられないことだと思う』と。

その女性が新しい学びを始めて、通いだした学校で疎外感を味わっていると電話があった。自分以外のみんなはそこそこ話し合っ、親しくなりだしているのに、誰も自分に近づいてこない。

本人に理由はわかっている。話し方に特徴があるから、「変わっている人」と見られているという。クラスメートはみな社会人の大人ばかりなのに、否、大人だから、何気に無視するのが長けている？

わたしは彼女のことを初対面の時から変わっているとは思わなかった。話し方はとてもマネはできないけど、外見のかわいらしさとバランスがとれている感じがしたせいかもしれない。

おそらくこれまでも同じようなことはあったろうに、今回はよほど堪えた様子。そこで、じゃ、自分を変える？と聞けば、『わたしはこれウリだと思ってる』。ほお～、そういう自覚があるとは。

それなら話はシンプル、みな態度は褒めたものではないけれど、気にとめず、平常心でのぞめばいい。自分を徹し、守ろうとすれば、潔さは必要。そんなことを、ちょっとキツく言った記憶がある。

その後クラスメートたちとの関係がどうなったかは知る由もない。初めは「見た目」で遠巻きしていた人たちが、彼女を少しずつわかって、「見た目」とは違う面の意外さに、いい仲間となっていたかもしれない。

「見た目」に惑われる。これにはまた別な話がある。

2018/4/18 (水)

晴時々曇

昨日の夕方から雨が降った。前日から黄砂が飛来していて、降りはじめの雨にあたらぬようにと予報で言っていた。今日は晴れたので、こんどは乾いてとびちる黄砂に注意が必要。花粉はそろそろ終盤。そう考えると梅雨という季節は体にはそうわるくない。

- 人を<わかる>ということ ④ - 見た目の奥

『口を閉ざすことです、何も言わないことです』。

人生の大先輩、80歳になる方に、今に至ってわかったこと、人生の答、そういったものは何ですかと尋ねて返ってきた言葉が、これだった。今から15年ほど前のこと。

昨年電話した時には別の人と勘違いされたが、まだ一人で寝起できるようだった。1990年知り合ってから、いつも気にかけてもらっていた。時々会っているいろいろな話をした。

戦中を生きぬき、戦後は地域社会で力を発揮し、第一線を退いてからはたくさんの趣味を同時進行させて、いつも、『わたしは忙しいですよ、いま若い頃の時間をとり戻そうをしているんですよ』。

歴史を生で知り、経営も政治を实践し、新聞を毎日くまなく読み、読書をたやすことがない。そういう大先輩の話聞くのがたのしかった。歴史に翻弄されつつ、果敢に生きる個人の生きドラマ。

人生終盤に至り、さてどういう境地、あるいは悟り、そういったものがあるのだろう。当然そう考えた、教えてもらいたかった。いずれわたしにも至りうるものだろうかと量ってみたかった。

返答は全く想定外のことだった。言ってる意味がすぐにはピンとこなかった。あらためて尋ねると、今や身内も自分に意見を求めることがないし、聞こうともしないし、言おうとしたら、遮られる。なら、閉ざす。

身内からも世間一般からも、「おじいちゃんはどういいねん」。見た目はすっかり老人だけど、いぶし銀の知がどれほど蓄積されているか、そこに気が回らない、＜透視＞できない。

意味がわかって、ドキッとした。わが身をふりかえった。無意識にわたしもそうなっていることがある。これから気をつけなければと思った。15年前のこと、まだ当事者の意識はなかったということになる。

2018/4/26 (木) 晴時々曇

昨日今日と気温が平年並み、風が少しつめたい。晴れてもいるし、こういう日に森林を歩けば、新緑に力をもらえる。気持ちがそそる。

- 人をくわかる>ということ ⑤ - 前向きな諦め、潔さ

人のことをくわかる>前に、そもそも自分自身のことをわかっているか。自分のこともそう簡単にわかるものではないと思う。早熟な人というのはやはり稀。例えば『羊の歌ーわが回想ー』を読んだ時、著者「加藤周一」には、こういう人を早熟な人というんだろうと思った。

それなりの時間をかけて、わかっていなかったということがわかる。自分に開眼する。そういうことがあったとしたら、自分であまり意識しなくても、自分史はまたそこから新しい段階へ進む。

過去の象徴的で断片的な記憶が紙縊りで繋がり、束ねみれば、そこに自分の根っ子が見える。今に至る自分がわかる。よくもわるくも、小さくても大きくても、目にみえても見えなくても、「モンテーニュ」が教えるように、細かなところで他の誰とも違う知の働き、言動がある。

腑に落ちる。自分自身に合点がいく。その味わいはけっこう快感。自分を少しはわかるだけの十分な時間を生きて、おかげでわたしもその快感を数年前に味わい、今も時々賞味する。新しい出来事や場面にわたしが織り込まれている。

わたしがそうなら他のみなそう。個々人独特で、それぞれの物語がある。中身までわからなくても、それを前提にする。見るからに老人なら、その人の中には長い物語がある。見るからに子どもなら、物語りは少なくとも宝の原石がひそんでいる。

自分のことも人のこともそう簡単にわかるものでないと思う。これも習慣のものだと思う。しばらく意識して人と接していくうちに、体に馴染む。お互いを少しわかってみて、まったく価値観が相いれない場合は、無理に立ち入る必要はないし、引き入れることもない。それが互いを尊重する意味でもある。

<前向きな諦め>、<潔さ>は、ひょっとすると社会的知性の際たるものかもしれない。